

平成 30 年度 施策評価表

施策	0503 医療体制の充実	施策担当部等	福祉保健部	部長	大槻 隆
		施策担当課等	国保けんこう課	課長	橋本 学
施策の方針 救急医療体制の充実を図るとともに、市民病院の医療サービス向上に努める。					

【DO（実施）】
基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	H31目標値	H32目標値	H29年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	達成率	進捗率
① 休日・夜間における年間外来患者数（当番医と夜間初期診療センターの合計人数）	人	10,051	10,000 9,962	10,250 10,325	10,500	10,750	11,000	100.7%	93.9%
② 市民病院の年間外来患者数	人	73,986	75,700 79,240	76,500 80,594	77,100	77,700	78,300	105.4%	102.9%
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

①救急医療を必要としない軽症患者について、休日においては休日当番医、夜間においては夜間初期診療センターを利用してもらうよう広報や市のホームページ、チラシ等で周知を図ることで、目標値を達成することができた。

②平成29年4月に新病院が開院し、内科、整形外科の患者が増加した。特に、4階に設置したリハビリテーション室を利用される外来患者が増加したこと等により、目標値を達成することができた。

施策経費

(単位:千円)		H29年度 決算	H30年度 予算	H31年度 見込	特記事項
内訳	事業費	850,186	827,992	817,991	
	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	510	510	510	
	地方債	0	0	0	
	その他	151,729	150,641	150,921	
	一般財源	697,947	676,841	666,560	
	人件費	22,356	21,108	-	
フルコスト	872,542	849,100	-		

施策の概要

050301	安心して受診できる体制づくり	休日や夜間に市民が安心して医療機関を受診できるよう、大村市夜間初期診療センター、民間医療機関、市立大村市民病院及び国立病院機構長崎医療センターの連携を強化します。 また、日頃から安心して受診できる身近な「かかりつけ医」の普及促進に努めます。
050302	市民病院の機能充実	老朽化した市立大村市民病院を改築し、病院機能の充実を図るとともに、地域医療の中核病院として、「市民の生命と健康を守り、地域に根ざし、市民に信頼される病院」づくりを進めます。

【CHECK（評価）施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題	夜間初期診療センターについては、平成25年5月から小児科と内科の2科診療となった。平成25年度の一日平均利用者数は、10.4人、平成29年度では、11.7人と主に内科利用者の増加により、全体での利用者数が増加した。夜間初期診療センターでの診療は、年々認知度が上がってきているが、さらに周知に努め、夜間における軽症の患者の利用促進を図る必要がある。 市立大村市民病院については、今後も引き続き2次救急医療機関として、地域医療の中核を担う必要があることから、医師の確保に努めていく必要がある。
------------------	---

【CHECK（評価）評価調整委員会】

(今年度は評価調整委員会による評価の対象外)	
------------------------	--

【ACTION（改善・改革）】

問題点・課題を踏まえた施策構成事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方	夜間初期診療センターは、年間を通じて毎日夜間に軽症患者の診療を行っており、長崎医療センター及び市民病院の患者数を抑制し、夜間における本市の高度救急医療の機能を守っている。 現在、設置目的どおりの効果を上げているが、今後も市民への更なる周知に努めていきたい。
--	---

平成31年度新規事業

事業名（仮称）	担当課	H31年度見込	対象・事業概要など
		事業費（千円）	
1			
2			
3			
4			
5			
		0	